

調査団体名	金城学院大学	団体代表者名	小野知洋(現代文化学部学部長)
活動地域	大学キャンパス内里山(名古屋市守山区大森)	団体URL	http://www.kinjo-u.ac.jp/
<p><活動内容></p> <p>学院創立120周年、大学創立60周年記念事業として、キャンパス内里山及びため池の保全と再生復元事業「森の中にある大学構想(仮称)」が承認された。提案者である教員及び事務職員でキャンパス整備委員会(仮称)がスタートし、学生の参加も始まった。2009年度から本格的な事業展開を予定している。委員会正式名称は学生からの声を聞きながら決定の予定。キャンパスを「森と水辺を楽しむゾーン」など6つのゾーンに分け、とりあえず、南西ブロックの除伐やツリーハウスなどを中心にした学生の活動、除伐広葉樹及び竹を利用した炭焼き、東側に隣接する八竜湿地につながるエリアでは散策道整備などを進める。除伐した広葉樹の萌芽更新の観察も始めている。地域の市民にも開放された空間を目指し、開放の方法を検討中であり、学生によるボランティアガイド、携帯電話を利用したウェブサイト自然ガイドシステムの構築なども視野に入れている。移転するクラブハウス跡地は、植生の回復や遷移過程を観察するエリアとする。さらに、環境教育に比重を置いて、太陽光発電や屋上緑化などを教育の一環として取り組む構想もある。</p>			
<p><連携している団体・専門家・自治体など></p> <p>八竜湿地を守る会との連携がとれている。同会の柴田美子代表に非常勤講師として授業もやってもらった。名古屋市緑政土木局(守山土木事務所)とも連携し、カシノナガキクイムシによる被害の調査や防除対策の協力、保護湿地のフェンス設置(鍵の共有)、湿地の水位調節装置の設置などが行われている。(このレポートのための取材時にも、偶然、八竜湿地を守る会の皆さんと湿地で出会い、園芸種スイレン除去などに関する意見交換が行われた)</p>			
<p><今までに行った調査・研究></p> <p>この事業の本格的始動は2009年度からであるが、これまでも八竜湿地保護と連動した活動が行われてきた。キャンパス内里山の植生調査などが、生物系教員によって行われている。南西ブロックではすでに、ツリーハウスが建てられている。広葉樹林の除伐は、業者委託でこれまでも行われてきた。</p>			
<p><現在直面している課題></p> <p>カシノナガキクイムシの被害はかなり顕在化している。名古屋市緑政土木局と連携して、幹のラッピング処理を試みている。散策道を整備するにあたって、キャンパスを南北に貫く市道があり、学生の安全を図ること、自然環境保全、教育的配慮とのバランス調整が必要。ため池はフェンスで囲まれていて水辺へのアプローチができない構造になっているが、付属幼稚園児の安全のためにやむを得ない。さらに、この事業遂行のための資金は課題の一つであろう。</p>			
<p><今後どんな情報が必要か></p> <p>学内の教員だけでは専門知識やノウハウが不足しているので、学外からの情報は歓迎する。地域市民に開かれたキャンパス空間のあり方、管理の仕方についても、女子大学という特別な環境であるだけに、適切な方法について知恵や情報が欲しい。</p>			



キャンパス内湿地。名古屋市環境事業局施設建設で破壊されようとした時、金城学院側が替地を申し出て守られた



お話を伺った西山教授と小野



歯学部の南側の里山林。この中にため池がある



キャンパス内ため池



八竜新池。この池の西岸付近をキャンパス境界が走り、散策道の計画あり



ハルリンドウが満開



シデコブシが開花寸前



絶滅危惧種マメナシの大木



八竜湿地側からキャンパス内里山展望



トウカイコムウセンゴケの群落



キャンパス南西ブロック里山林に建てられたツリーハウス



キャンパス航空写真